

天遊 Ten You

大阪教育大学広報誌

OSAKA KYOIKU UNIVERSITY
PUBLIC INFORMATION MAGAZINE

Winter 2018 Vol.43



ラボ訪問

STUDENTS NOW!

BAGの中身

附属学校園ウォッチ

ゼミ室こぼれ話

TOPICS

特集
1

理論と実践を結ぶ 教育実習

特集
2

地域とつながる大教大

大教大
NAVI



アプリを利用すれば、今号の「天遊」に関連した動画が視聴できます。

「大教大NAVI」アプリをダウンロードして、左記のアイコンと同じボタンをアプリ内でタップするとカメラ画面に切り替わります。次に左記のアイコンをカメラに読み込めると、動画が視聴できます。

詳しいアプリの使い方はホームページをご参照ください。



国立大学法人
大阪教育大学



理論と実践を結ぶ 教育実習

大阪教育大学では、実践的指導力を育成するため、
4年間積み上げ型教育実習を行っています。
平成29年度入学生からは、新たに小中学校へ
学生を派遣する「学校インターンシップ」を開始。
「大学で学ぶ理論」と「現場での実践」とを結びつけ、
深く子どもを理解し、教職に求められる
社会的要求に応え得る知識と技術を修得します。

4年間積み上げ型教育実習

学校で実際に授業をする基本実習を中心に、学校インターンシップで基本実習の準備や、そこで得た成果や課題をさらに発展させます。

※ 教育協働学科、初等教育教員養成課程(小学校教育専攻夜間コース)を除く。
※ 所属する専攻や回生によって、必修選択の別や開講科目が異なります。
※ 併修実習は、卒業要件以外の免許状を取得する場合に履修。

1回生	2回生	3回生	4回生
教職入門実習	学校インターンシップ		
教わる側から教える側へ視点を転換する	子どもや教職への理解を深める	実践的な指導力を身につける	実践力に磨きをかける

教育実習担当学長補佐 石川 聡子 教授(理科教育講座)

基本実習は、大学で学んだことが現場の子どもたちの前で通用するのかを試す場です。たとえば実習校で上手くないことがあっても、大学に持ち帰って今後の自分の課題にしてほしい。多くの学生は基本実習を終えると、教員になりたいという思いを強くします。今年度からは事前・事後指導の一環として、基本実習を控えた2回生が、3回生から経験談を聞くグループワークを行いました。学生同士で交流することで、より具体的なイメージを持つことができました。

また、授業の一環として小・中学校で教員の補助などをする「学校インターンシップ」を開始します。将来教員になると決めている人はもちろんですが、迷いがある学生にこそ参加してほしい。1回生の10月に説明会があり、早ければ2月から学校での活動を開始します。早いうちから学校現場を体験することで、教職へのモチベーションを高め、理想の教師像を持ってほしい。教職以外の道に進む人も、将来設計をはっきりさせて、4年間に有意義に過ごせます。

今後も大学、学校現場、教育委員会の連携を密にしながら、学校インターンシップと教育実習の接続など実習改革に取り組みたいです。



REPORT 基本実習

学校教育教員養成課程 理科教育専攻 3回生 向井秀介

約1カ月の実習を終えて、楽しかったというのが一番強い思いです。もともとは高校教員志望で、中学生は子どもの発達段階としては一番難しい時期と思っていたので敬遠していました。でも中学校の先生もいいなと今は迷っているくらいです。

課題も浮き彫りになりました。

クラス指導では、生徒同士がもめた時、生徒の自主性に任せて解決を見守るのか、介入するのか、タイミングや程度がわからず難しいなと感じました。授業では、理科の面白さを感じてもらいたいと化学実験をしました。生徒には終始わいわいとした雰囲気です。授業を楽しみ、理科を好きになってもらいたいと思い、指導案を作っていました。でも、授業を見ていただいた先生からは「もっと緩急をつけた授業を」との意見を多くもらいました。特に実験の時は、気の緩みが事故に繋がることもあるからです。理想と現実のギャップを感じました。

今後は、実習ではないのですが、出身高校で授業観察や先生の補助などをしに行く予定です。高校や他の公立の中学校も見たいと今は強く思っています。



基本実習のとある一日

《向井さん@附属天王寺中学校》

- 6:00 起床
▼ 準備
- 6:40 家を出発
▼ 移動
- 7:30 学校に到着
▼ 体育祭の朝練
- 8:25 実習生朝礼
▼ 移動
- 8:40 1限実験装置の準備
- 9:40 2限国語の授業見学
- 10:40 3限理科の授業見学
- 11:40 4限実験試薬の準備
- 12:30 昼食と授業準備
- 13:20 5限理科の授業
- 14:20 6限理科の授業
- 15:10 終礼
- 15:40 掃除指導
- 16:00 体育祭の夕練
- 17:15 下校指導
- 17:30 予備実験
- 18:30 日誌の書き込み
- 19:00 帰宅準備
- 20:00 帰宅
▼ 自由時間
- 22:00 教材研究
- 24:00 就寝

生徒たちと、
クラス対抗種目
「ムカデ競争」の練習。

他教科の授業を
見学し、どんな板書
をしているか、指導
にはどんな工夫がさ
れているかを学びま
す。

担当するのは、
中学2年生の2クラス。
同じ内容でも、反応
が全然違うため、
臨機応変に対応する
必要があります。

最後に締めの一言。

できるだけ練習には
顔を出して、
アドバイスなどを
していました。
練習のかいあって、
体育祭本番では
1位に。
その姿を見て、
泣きました。

学校インターンシップ

平成30年2月から、小中学校へ学生を派遣する「学校インターンシップ」を授業の一環として行います。学校現場において教育活動や校務、部活動などの支援や補助業務を体験することで、教員の多岐にわたる職務を知り、子どもについて理解を深め、基本実習を補完することを目的としています。また学校現場をただ経験するだけでなく、大学で学んだ理論を現場に当てはめてみる、応用して現場でおきている問題の解決を試みるなど、理論に裏打ちされた実践力を養うことをめざします。

大阪、兵庫、奈良の各自治体の教育委員会に協力を呼びかけ、学生自身の居住地域やその近隣の小中学校においてインターンシップを行います。近い将来その地域の教師となって地域の学校教育を担う人材の育成をめざします。





地域とつながる大教大

地域との交流は、大学の社会貢献活動であるとともに、学生が地域と触れ合い、社会を学ぶ機会でもあります。
 本学が取り組む地域との連携活動について紹介します。



森林体験学習

柏原市 × 柏原市教育委員会 ×
 大阪府 × 理科教育講座

イベントレポート

7月中旬、柏原市立堅下小学校4年生約70人が8つの班にわかれ、校庭と森の土壌の違いを知る体験学習を行いました。本学学生10人が参加し、各班のリーダーを務めました。参加した学生は、「まずは子どもの安全が第一。その上に学習があり、教員は子どもが自主的に学ぼうとする意欲を引き出す指導をしなければならないと感じました」と話しました。



リーダーを先頭に高尾山に登ります。



グループに分かれて、土を掘ります。



水を流し入れ、浸み込む様子を観察。
 学校の運動場でも実験し、違いを調べます。



グループで意見をまとめ、発表します。

INTERVIEW



学校教員養成課程 理科教育専攻 4回生 **しぎ ゆきの 信貴 雪乃さん**

「カマキリの卵がここにある」「変な色のキノコがある」、何かを見つけると子どもたちはすぐさま報告してくれます。大人と比べて低い視線を持つ子どもならではの発見が面白い。小学校の先生も一緒に活動するので、声かけの仕方、横断歩道での安全確保など学ぶところが多いです。私は学生のまとも役として、柏原市役所との調整役も担いました。電話が苦手、最初は本当に緊張しましたが、イベントを実施する裏ではこんな風に物事が動いているのかと勉強になりました。

これまで主に理科教育専攻だけでやっていたのですが、今回は参加者を学内で広く募り、教養学科の学生が参加してくれました。またやりたいと言ってくれ、教員志望でない人も得るものがあると確信しました。子どもと一緒に何かを成し遂げるというのは貴重な機会なので、もっと他専攻にも広がると嬉しいです。

柏原市の小学生が市内にある「高尾山創造の森」へ行き、自然に触れつつ森の働きや自然の大切さを学ぶ「森林体験学習」。「落ち葉のお風呂」「間伐体験」「森のビンゴゲーム」など、いろいろなプログラムが用意されています。本学の理科教育専攻を中心とした学生たちが、子どもたちのグループのリーダーとして、プログラムの実施をサポートしています。

ハートフルコンサート

大阪府教育委員会 × ザ・シンフォニーホール ×
 芸術表現講座

イベントレポート

9月初旬、教育協働学科芸術表現専攻音楽表現コースの学生らによるウインドオーケストラがコンサートを行い、大阪府立支援学校9校の児童・生徒約700人が参加しました。主旨に賛同した全国の国立大学の管楽器専任教員12人も出演。当日は『スター・パズル・マーチ』『ルパン三世のテーマ』など8曲を演奏しました。

鑑賞した支援学校の生徒は「こんなコンサートには、初めて来た。シンバルの音がきれいだった」と感想を語りました。フルート奏者で司会を務めた教養学科芸術専攻3回生の松尾早彩さんは、「子どもたちの反応がダイレクトで、ノリがよかった。身体を動かしたり、拍手したりして気持ちを表現してくれて、生の音楽の良さを感じてもらえたようで嬉しかった」と笑顔で話しました。



特別支援教育専攻の学生らが、入退場を誘導。



オーケストラの演奏や歌に合わせ子どもたちが手拍子。

INTERVIEW

くましろ おさむ
 芸術表現講座 **神代 修准教授**



昨年度、初めてこのコンサートを行いました。音にあわせて声をだす、リズムにあわせて体を揺らすなど、生徒さんたちのダイレクトな反応は嬉しかったですね。2回目の今回は、一方的に演奏を聴いてもらうだけでなく、一緒に何かできないかと考えて、合唱曲を取り上げました。リハーサルができないので、曲が成り立つか心配しましたが、感情豊かに大きな声で歌ってもらえて大成功しました。

このコンサートでは、入退場時の誘導、終了時間や食事場所の提供など独特の留意事項があり、事前の段取りが通常とは全く異なります。そんな中でも私たちが演奏に集中できるのは、大阪府教育委員会の完璧なサポートがあるから。学校バスの配車や乗り降りなど、さまざまなアシストをしてくれます。またザ・シンフォニーホールも、社会的使命として企画に賛同し、無料で施設を提供してくれています。国立大学、自治体、民間の三者で協力し、このようなコンサートができていることは、全国的にも例がないのではないかと思います。

出演する学生たちは、入念に準備をしてきました。リハーサルはもちろん、ステージの楽器配置、進行など、全てゼロから作り上げました。学生たちにとっても本当に良い経験になっています。

コンサートを終え、改めて「文字や言葉のいない音楽の力」は凄いなと思いました。今後も続けていきたいです。

柏原シティキャンパスマラソン

柏原市と柏原市教育委員会
 が主催し、本学が共催するマラソン大会。柏原キャンパスを会場に、2km、3km、5km、10kmの特設コースを設けて、高低差最大約100メートルのコースをランナーが駆け抜けます。



イングリッシュ・デイキャンプ

柏原市教育委員会の協力のもと、本学外国語学習支援ルームが主催する小学生対象の英語を学ぶイベント。プログラムは、教師をめざす本学学生が考案。歌やゲーム、クイズ、工作などを通して、楽しみながら学べるよう工夫が凝らされています。



公開講座

一般の方を対象に、毎年約30講座を開設。美術、パソコン、音楽、外国語などの多彩な講座を開講しています。小学生を対象にした理科教室や、タブレットPCで簡単教材づくりなど、本学の特色を活かした講座もあります。



山の日PRイベント「大阪のまちなかで山遊び！」

林野庁・環境省が主催する山の日PRイベント。本学の理科教育専攻、美術教育専攻の学生が子ども向けワークショップを行い、本学公式キャラクター「やまお」が来場者と触れ合いました。





▶『数学を教える』を科学する

教員をめざし、大学へ進学した真野祐輔准教授。教員養成課程は免許を取って卒業するところで、研究して専門性を深めるところではないと思っていました。しかし、「勉強していくうちに、『数学教育学』という研究領域があり、それを専門にする研究者が国内外で活発に研究している。面白いと感じました」。恩師との出会いもあり、大学院へ行こうと決意します。博士号へのプレッシャーや就職への不安を抱えながらも研究に打ち込み、無事に博士課程を修了。本学に着任します。

大教大の特色は、教員養成大学でありながら、解析学、遺伝子学、文化人類学など各学問の専門性を大事にしていることだと感じています。一方で、「教科教育も実践だけでなく、一つの学問、研

究領域として発展させようとしている」と強調します。例えば数学教育学と聞くと、良い指導法や教材を考えるといった「開発」や、それを現場で活かす「実践」を思い浮かべます。しかし数学教育学の研究とは、「数学を教える」という活動そのものを理解することだと言います。「良い指導はなぜ良いのか。そもそも『良い』の基準は何か。新しい指導法を作ったり試したりするだけでなく、そこで行われていることを理論化し、解明するのが研究です」

現在は、数学を学ぶ上で日本語がどんな影響を及ぼしているのかに注目し、日本の数学教育の特徴を明らかにすることに関心を寄せます。特に、「論証指導」に着目。三角形の合同の証明などが有名ですが、半分以上の生徒たちが論証の意義を

理解できていないという調査もあり、その一因が日本語の構造にあるのではないかと考えています。「例えば、証明問題を解く際によくでてくる『すべての』『任意の』という言葉。英語でいうとallやanyですが、日本語の日常会話ではあまり使いません。現在学校現場で教えられている西洋由来の数学は、ヨーロッパ言語をベースに命題や数式の作り方などが決められています。日本語との文法の違いからくる違和感が、苦手意識に繋がっているのではないかと。こういったマイナス面だけでなく、日本語を母語とすることがプラスになることについても探っています」

自身の研究はできるだけ国際会議や国際ジャーナルに出そうと取り組んでいます。「日本の教材開発や授業づくりなどは、海外からも評価は高いですが、そのまま英語で書くだけでは伝わらない。日本では、開発や実践に比べて理論化が進んでいませんし、国によってカリキュラムや指導法などのあり方も違います。日本の数学教育を国際化し、海外へ発信していくのも研究者の仕事」。海外の研究者との共同研究なども重要だと考えています。

学生には、お手本にしている先生を縮小再生産するのではなく、超えて欲しいと望みます。「過去に出会った学校や塾の先生を目標に教師をめざす学生が多い。でも、意欲次第でいくらかでも深い学びができるのだから、自分の教育観を広げ、それまでの価値観が変わるぐらいのブレイクスルーを経験して欲しい」。しかし今の学生は、「難しい」「わからない」ということを嫌がる傾向にあると感じています。「大学の勉強は、難しいのが当たり前。わからないことに触れるから、新しいことが学べる。学生には、わからないことがわかるようになる経験を沢山してほしい」。だから数学を専攻する学生には、あえて難しい課題を出して困ってもらいます。「他専攻の人には、算数や数学を好きになってもらうことが第一です。でも数学が好きで大学に来た人たちは、知識を増やすべく、どんどん困ればいい」と笑います。自身と同じ数学教育専攻の学生の話になると、ストイックな研究者の顔の中に、学生を見守る厳しくも優しい教育者としての顔が垣間見えました。



ゼミ生と数学会館

数学教育講座

真野 祐輔
准教授

YUSUKE SHINNO



▶来た船に乗る

「最初からこれだという道に出会えたわけではなく、ちょっとずつ寄り道しながら進んできました。でも振り返れば、結局すべてが正しい具合に今につながっています」

大学進学時は小学校教員をめざしていた寺坂明子講師。「当時は、学級崩壊やいじめ問題がメディアで頻繁に取り上げられた頃で、特に学校での子どもへの心理的な支援に興味がありました」。しかし、教育実習が転機になります。30人をこえるクラスで、全員に合った支援をしつつカリキュラムを進行していくのは難しいと実感。もっと心理学を勉強して、教員とは違う立場で子どもたちをサポートできないかと考えるようになります。

九州大学大学院人間環境学府で臨床心理学を専

攻し、博士課程まで進みます。博士課程では、大学へ行くのは週1回、あとは病院の精神科で働くという生活でした。そんな中、非常勤でスクールカウンセラーの仕事を始め、学校心理学をもっと学びたいと思い始めます。そこで博士課程3年生の時、日本よりも研究が盛んなカナダの大学に留学しました。

留学先では、食事と睡眠の時間以外はずっと勉強という環境に驚きます。「人生で一番勉強した時期。授業の前は泣きながら勉強していました」と笑います。そこで学んだのは「子どものサポートをしようと思ったら、まず子どもの周りにいる大人をサポートしなければならない」ということ。特に専門とする小学校では、子どもが自身の状況を言葉で説明することが難しい場合が多く、子どもの抱え

る困難が学習や行動面に現れることで、相談に発展します。「スクールカウンセラーは、保護者や先生に対して子どもとの関わり方を助言するのが活動の中心。単に子どもと一対一で良い関係を築くのが目的ではありません」

帰国後は博士論文を執筆しながら、神奈川県藤沢市の小学校で働き始めます。「実はスクールカウンセラーという言葉があまり好きじゃない。どうしても話を聞くというイメージが先行するのですが、あくまでもそれは一部。特に小学校の場合は、観察がベースです」。教室で子どもの行動を観察し、先生の動きかけへの反応、周囲とのやり取り、授業中の集中力などから、どのような支援があればもう少し生活しやすくなるのかを保護者や先生と考えます。

その後家族の都合で再びカナダへ。東京での仕事を経て、本学へ着任します。

現在は、「子どもの怒り」や「学級における行動マネジメント」を研究しています。周りの皆に合わせられない、攻撃的な行動をしてしまう子どもたちが、どうすればよりよく生活できるのか。教育実習に行った学部生の時からずっと自身の中にあるテーマです。「怒りそのものは、人間として当然感じるべき大事な感情。重要なのは、それをどう表現するかです。子どもの望ましくない行動を減らし、望ましい行動をどう強化するか。先生と子どもの相互作用に着目し、不適切な行動が起こりにくい環境や状況を整える方策を探っています。「こういったことは大学で教わるというよりは、皆現場に出てから経験で学んでいて、それが共有されていない。様々な事例を集めて学んでおけば、対応策のレパートリーが増やせます」。授業で学生にもっと知識を提供していきたいと意気込みます。

好きな言葉は「来た船に乗る」。「めざすゴールとは違う行き先の船でも、とりあえず乗ってみる。時には降りてみたり、違う船に乗り換えたりしているうちに、気づけば行きたかった場所の近くにたどり着くこともあります。すぐに希望通りにならなくても悲観的にならず、期待を持って待つことも大切」。物事をしなやかに受け止め、状況に応じて考え行動する。その行動力、柔軟性、前向きさが、来た船を見逃さない、乗り遅れない秘訣かもしれません。

教育心理学講座

寺坂 明子
講師

AKIKO TERASAKA



Students Now!

スチューデント ナウ

大教大
NAVI 天

インタビュー動画が
見られます。



軸を持って行動する

つち や と き お
教養学科芸術専攻 4回生 土屋 時生さん (神戸市立葺合高等学校卒)

「僕はバスケットに集中しようと思うと、それ以外のことに没頭する時間が必要です。脳と心が豊かじゃないと、パンクしてしまう。オフの時は一切バスケのことは考えず、映画見て、本読んで、文章を書いて、寝ます」。そう語るのは教養学科芸術専攻の土屋時生さん。体育会バスケットボール部に所属しています。

大教大を選んだのは、芸術を実技ではなく学問として勉強でき、実家から通えるから。芸術作品を客観的に見て、どんな表現が使われているのか、どこから影響を受けているのかを分析しています。「何がいいのかをきちんと言語で説明する。鑑賞者によって意見が分かれる『芸術』は、良い点をしっかり定義できる『偉大なる鑑賞者』によって人々に理解されてきました。そこが面白い」。自身でも物語を書き、いつか本小説を完成させたいと考えています。「3つキーワードを決めて、膨らませて、キャラクターの特徴を考える。そうすると頭の中に物語ができます」。スマートフォンのメモ帳は、物語の構想やアイデアで埋まっています。

大学でバスケットはやらないつもりでした。しかし監督から度々誘われ、遊びの気持ちで試合を見に行くことに。すると「僕のサイズの新品のユニフォームが置いてあって、ベンチ登録までされてい

る。いつのまにか、スタメンで試合に出ることになっていた」。不本意なまま入部し、雑用仕事はせず、他の部員と会話もしませんでした。そんなある日、バスを乗り間違えて試合に遅刻してしまいました。「先輩に、『普段の態度がこうやって現れるんだ』と怒られ、自分でもすごく反省しました」。現状にあらがって適当にやるのではなく、きちんとバスケットをやってみようと思い直すと、部活が楽しくなりました。「自分の活躍が目的じゃない。チームが勝つために必要なことをやるだけ。試合に出られなくても、縁の下で力持ちとして貢献できればいい」

3回生でプロバスケットボールクラブ「西宮ストークス」から特別指定選手として入団しないかとの声がかかります。関西学生連盟バスケットボールリーグでまさかの敗戦を喫した時でした。「来年は自分たちの代だと思ったら、勝つために四の五の言っていられない。全員がお手本であるプロの世界で、自分にないものを盗もう」と入団を決意します。シーズン中は朝にストークスの練習、大学で授業を受けて、夕方は部活という日もありましたが、「今のままプロの世界に入ったら、自分のプレーが確立できないまま補佐役にまわってしまう。部活でチームの中心となることを経験しておくこ

とで、プロに進んでからのプレーの幅も広がる」。卒業後はバスケットでやっていく予定です。それは、高校生の弟が影響しています。「弟は、小中と成績を残し、バスケの強い高校に進学しました。ここで僕が辞めると、近くで先を行く人がいない」。兄として先を走っていなければとの思いがあります。もう一つの理由は、もっと上手になれるという思い。「まだ自分の中のイメージと現実とずれがある。今より上手になれる世界はどこかという、プロに行くことだった」。これ以上上手にならないと感じた時に辞めようと考えています。

学業とバスケットで忙しい4年間を送った土屋さん。大学生活を有意義に過ごす秘訣は、「自分の軸を見つけること」と言います。「人生の軸となる、本当に興味のあることを見つける。それ自体を仕事に繋げてもいいし、仕事では関係ないけれど並行して続けられるような道を選んでもいい。それを軸に将来設計することで、人生がずっと豊かになります」

「理屈っぽいんです」と自らを評し、自身の言葉にも曖昧さを許さず、時には自問自答しながら、丁寧に筋道を立てて話します。その姿は彼の生き方そのもののよう。論理に裏打ちされた言葉や行動は重みを持ち、ぶれない彼の軸となっています。

忍耐力を強みに教育の世界へ

かけひ あおい こ
教養学科自然研究専攻 4回生 寛 葵湖さん (大阪府立大手前高等学校卒)

「忍耐力は負けません」ときっぱり言い切る寛葵湖さん。小学校4年生から柔道を始め、本学でも体育会柔道部に所属。物事に粘り強く取り組む姿勢を培いました。高校や大学では女子部員が一人ということもあり、「技術はこちらが上なのに力負けして悔しい思いをしたり、男子部員と同じ練習メニューをさせられて辛かったりと、いろんなことを経験しました」。それでも、今年9月に引退するまで14年間続けてきました。

高校生の頃から、どこの大学に進学しても教員免許は取得しようと決めていました。その理由は両親にあります。「高校受験の時は塾に通わず、ずっと母が勉強を見てくれました。友達も教わりに来て、『寛塾』なんて言われていました。父親も企業で研修の講師のような仕事をしています。ふたりとも教員免許を取得していて、教職でなくとも『何かを教える』ことに携わっています」。そんな姿を見て、教育学を学ぶことは、どんな将来を選んでも役立つと考えていました。

将来や進路は漠然としたまま、子どもの頃から大好きな生き物の研究をしようと教養学科自然研究専攻に入学。当初は理系の大学院への進学を考えていましたが、教職関係の授業を受けるうちに、世話好きで面倒見のいい自身の性格が教員向きだと感じ始めます。「相手の立場で物事を考え、頼まれたことは

120%で返す。そういう自分を活かせるのが教員じゃないかと気づきました」。理想の教師像は、中学時代の柔道の先生。「勝ったら怒って、負けたら褒める。勝ったことに満足せずさらなる成長を促し、負けた時はよく頑張ったと褒めて次に目を向けさせる先生でした」。恩師のように、常に次の成長につながる指導をしたいと意気込みます。

所属する化学生態学研究室で、研究対象に選んだのはシロアリ。体表成分の分析や行動観察からその生態について探っています。実験で使うシロアリをキャンパスで捕まえるのは一苦勞だそう。「先生には『時間と根性で見つける』と言われますが結構大変。何度も茂みに分け入って、松の倒木を探し、斧で割って、枝につまっているシロアリを採取します」。捕まえたシロアリは、イベントでも活躍します。シロアリの習性をわかり易く紹介し、嫌われがちな虫たちが自然界で重要な役割を果たしていることを伝えます。スマートフォンには可愛がっているシロアリの写真がたくさん保存されています。

卒業後は教職大学院へ進学します。進学理由の一つは、教科の指導法、学級運営、特別支援教育など、もっと教育を深く学びたいとの思い。もう一つは、高校生対象の院内学級について研究したいと考えたからで

す。病気やけがの治療のために長期間登校できない高校生の学習支援として、大阪府は平成24年から非常勤講師を派遣する制度を創設。そのきっかけを作ったのが、高校時代、長期入院を余儀なくされた同級生の訴えでした。「彼が、例えばタブレットをつないでオンライン中継で授業を受けられないかと言っていました。ICTは今とても注目されていますし、せっかく大学院で研究するなら彼の願っていた高校生対象の院内学級にもっとICTを有効活用する方策を探りたい」

周囲からは、大学院進学や、一般企業の仕事を経験せず教員になることに懐疑的な意見を言われることもあります。それでも「物事は自分の思ったようにいかないこともあるし、予想外に良い方向に転がることもあります。いろんなことに挑戦して、結果に一喜一憂せず全て経験と捉え、深みのある人間になりたい」と語ります。

今春から妹も本学に入学しました。「性格も興味のあるものも全然違う。なのに、いつのまにか幼稚園から大学までずっと同じ学校です。大教大を選んだのは、私が紆余曲折していたのを見て、彼女なりに思ったことがあるのかな」と苦しい。家族の話になると途端に眼差しが柔らかくなり、優しいお姉ちゃんの顔に。自身のことを話す力強さとのギャップがとても印象的です。

OKU男子 彼の気になる

BAGの中身

夢や希望でいっぱいの大教大生のカバンの中を特別に見せてもらいました。

モノを出し入れしやすいので
普段はトートバッグを愛用。
荷物が多い時はリュックです。

お守り

家庭教師をしている生徒の
合格祈願のお守り

マレット

おおよそ100本くらい持っています。重さや重心、
バチ自体の音の揃い等を気にして選んでいます。

華麗なバチさばきで
魅せる！

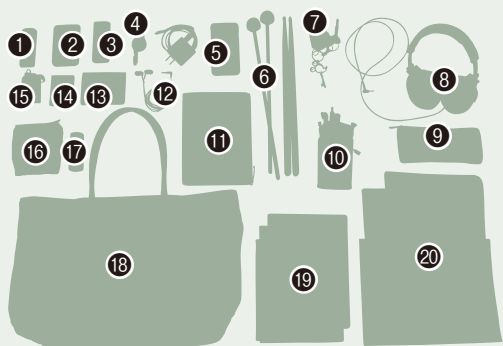
さとう いつき
佐藤 慈さん
教養学科芸術専攻
音楽コース 4回生

虫さされの薬

虫に刺されやすいので
必ず持っています

図書館で借りた本

昔は読書を全くしなかったのですが、最近はまってい
ます。音楽に関係するものを図書館で借りて読みます。



①ICレコーダー ②モバイルWi-Fiルーター ③モバイルバッテリー
④USBケーブル ⑤スマートフォン ⑥マレット ⑦鍵 ⑧イヤホン
⑨財布 ⑩筆箱 ⑪図書館で借りた本 ⑫イヤホン ⑬パスケース
⑭ガム ⑮お守り ⑯薬用デオドラントポディシート ⑰虫刺されの
薬 ⑱かばん ⑲大学から配布された手帳、ノート ⑳楽譜

大教大
NAVI

天

オフショット動画が
見られます。

将来は演奏家兼パフォーマー！

本学ウインドオーケストラのコンサートで、友
人と2人熱いパフォーマンスを披露した佐藤慈
さん。打楽器を専門としています。

カバンの中には、マレットと呼ばれる打楽器を
演奏するバチをはじめ、音楽に関するものがたく
さん。本格的に音楽を始めたのは高校生の時、と
もに大教大特設音楽課程の卒業生という両親の
影響からでした。特に打楽器をメインとしたパ
フォーマンスグループを主催する父親は、「ブレ
イヤー」としても経営者としても尊敬すべき大先
輩。だそう。佐藤さん自身もグループの準メン
バーとして活躍中です。

卒業後は、正式メンバーになりますが、それだ
けでなくクラシックコンサートなどで、演奏家と
しても活動していきたいと考えています。「4回
生の始めまでは音楽を続けることに迷いがあり
ました。でも辞める理由もないし、誰の反対もな
い、それなら続けようと思いました」

音楽以外にも、アルバイトで家庭教師をしていま
す。子どもが『できたー』と喜んでいる姿や成長し
ていく姿を見るのが好き。教えるのは楽しいです。
演奏中のダイナミックさとは違って変わって、は
にかみながらぼつぼつ話す姿が印象的です。



小学生を招いたコンサートで華麗な技を披露



音楽棟のホールで練習中

ゼミ室ぐぼれ話

第5話

《国語教育講座国語学研究室》

井上博文先生の国語学
ゼミは主に方言と若者こと
ばを研究しています。つい
この間も先生と一緒に、岐
阜県郡上市和良町へ現地
調査に行きました。岐阜県
は、日本の真ん中あたりに
位置しているので、「語彙は東日本、発音は西日本」だったり、またその
逆だったりして、方言的に面白い地域です。お寺を訪ねたら、方言に詳しい
人にすぐ電話してくれましたし、小学生の男の子は自転車で道案内して
くれました。忙しくてインタビューに応えられないお詫びにとブルー
ベリーをくれる人もいました。皆さんとても親切で、楽しかったです。

井上先生はとても気さくで、SNSの方言ゼミグループのページに
は、先生が撮影した現地調査の様子や、お土産を皆で食べている写真
がたくさん載っています。教育実習の研究授業の時は、一人ひとりにコ
メントがついていました。

ゼミの卒業生は、教員、アナウンサー、新聞記者、ラジオDJなど様々
ですが、共通するのは「言葉」を使う職業だということ。私たちも日常的
に「言葉」を意識して、気になる表現が聞こえたら頭にメモします。これ
を先生は「頭にフックをつけて、言葉をひっかける」と言っています。そ
ういう独特な表現もさすがだなと思います。

(高窪祐太さん 学部3回生)

〈キトリ〉

天遊 vol.43 アンケート

●本号でよかった記事を下から選んでください。
(3つまで。その他は具体的にお書きください。)
【 】 【 】 【 】
(その他)

①理論と実践を結ぶ 教育実習 ②地域とつながる大教大
③ラボ訪問 ④STUDENTS NOW! ⑤BAGの中身
⑥附属学校園ウォッチ ⑦ゼミ室ぐぼれ話 ⑧TOPICS

●取り上げてほしい記事がありましたらお書きください。
()
●本誌をどこで手にされましたか。
()
●本誌をお読みになってのご意見・ご感想などをお聞かせください。

●次号以降、毎号「天遊」の送付を希望される方は記載をお願いします。
(一度、送付希望ハガキをいただきました方は、再度お申し込みは不要です。)

どちらかに☑をしてください	☐ 次号以降、毎号「天遊」を送付希望します。 ☐ 今後「天遊」の送付を停止します。
ご住所 〒	
お名前	
お電話番号	

※お預かりした個人情報は広報誌「天遊」の送付以外には使用いたしません。

01 女子ハンドボール部が全日本インカレ準優勝

女子ハンドボール部が、全日本学生ハンドボール選手権大会(全日本インカレ)で準優勝を果たしました。全国から集まった32チームが、大学日本一をかけて争いました。本学女子ハンドボール部は西日本第2シードで出場。準決勝で関東1位の筑波大学に19対17で勝利し、3年ぶりに決勝に進出しました。決勝では西日本1位で大会5連覇を狙う王者・大阪体育大学と激闘を繰り広げましたが、18対23で惜しくも敗れました。

優秀選手賞に選ばれた宇野史織さん(スポーツ専攻4回生)は、「1年の時以来の大阪体育大学とのインカレ決勝戦だったので、今度こそ勝って絶対優勝するという気持ちで臨みました。目指していたのは優勝なので、悔しい気持ちでいっぱいですが、最後の年に再び決勝の舞台に立てたことは幸せです」と語り、卒業後は「大学生活で得た経験を活かし、実業団でハンドボールを続けていく」と述べました。同じく優秀選手賞に選ばれ、チーム得点王の村松沙耶さん(スポーツ専攻3回生)は、「次は最上級生になるので、チーム全体のことを考えて引っ張り、大教らしい『堅守速攻』のチームで、日本一をめざしたい」と目を輝かせました。



02 シンフォニーホールに「復活」が響く 第61回定期演奏会



教育協働学科芸術表現専攻音楽表現コース・教養学科芸術専攻音楽コースによる「第61回定期演奏会」がザ・シンフォニーホールで開催されました。今回は国内外で活躍する飯森範親氏を指揮者に迎え、マーラーの交響曲第2番『復活』を演奏。オーケストラ約100人、コーラス約70人による大編成で、約1時間20分におよぶ大作を披露しました。

『復活』は、引き締まった弦楽器の音でスタート。第1楽章後に、長いポーズ(休止)を取った後は、間を入れず第5楽章の歓喜のフィナーレまで一気に駆け抜けました。

アルトソロを務めた林真衣さん(大学院芸術文化専攻1回生)は「飯森先生には音程だけでなく、ドイツ語の発音や歌詞の表現なども指導して頂き、大変勉強になりました」と語りました。観客は「合唱や舞台袖のファンファーレの深い響きが立体的で、奥行きを体で感じる事ができた」と感想を話しました。

飯森氏は、演奏した学生に対して「ミスもあったかもしれないが、どんな音を出して、どんな風に表現したいかを『考えてくれた』ことが非常に嬉しい。リハーサルで伝えたことはプロのオーケストラに伝えていることと同じ。これだけの成果を出せたことに自信を持ってほしい」と激励しました。

(キリトリ) ✂



料金受取人払郵便

柏原局
承認

432

差出有効期間
平成30年
9月30日まで

切手不要

郵便はがき

5 8 2 8 7 0 5

(受取人)

大阪府柏原市旭ヶ丘4-698-1
大阪教育大学広報室 行

✂ (キリトリ)

※該当する番号を○で囲んでください

あなたのご所属を教えてください

- | | | |
|-----------|----------|----------|
| ①本学学生 | ②本学卒業生 | ③本学保護者 |
| ④本学教職員 | ⑤附属学校生 | ⑥附属学校保護者 |
| ⑦附属学校卒業生 | ⑧附属学校教職員 | ⑨名誉教授 |
| ⑩教育委員会関係者 | ⑪他大学教職員 | ⑫他大学学生 |
| ⑬その他() | | |



公式 Twitter はじめました

<https://twitter.com/OsakaKyoikuUniv>

公式 facebook ページ

<https://www.facebook.com/OsakaKyoikuUniv>

公式 Instagram ページ

<https://www.instagram.com/osakakyoikuuniv/>各種イベント、ニュース等を配信しています。
是非フォローしてください。

公式アプリケーション

Android・iOS
スマートフォン対応アプリ天遊の
動画も
見れる

大教大NAVI

大阪教育大学入試ナビゲーター

取材時のオフショットや、紙面では伝えきれないイキイキとした学生・熱意のこもった教授などのナマの声を動画で配信!

〈詳しい使い方はホームページをご参照ください〉

App Store・Google Playから検索。

Available on the iPhone
App StoreANDROID APP ON
Google play

大教大



「天遊」とは

「天遊」とは荘子の言葉で、人間の心の中に自然に備わっている余裕を表しています。キャンパス統合移転の記念碑に銘文として刻まれており、揮毫は故水嶋昌(山耀)本学名誉教授によるものです。「天遊」の読みからとった「TenYou」は、「十人十色、その中のあなた」というメッセージを込めています。

